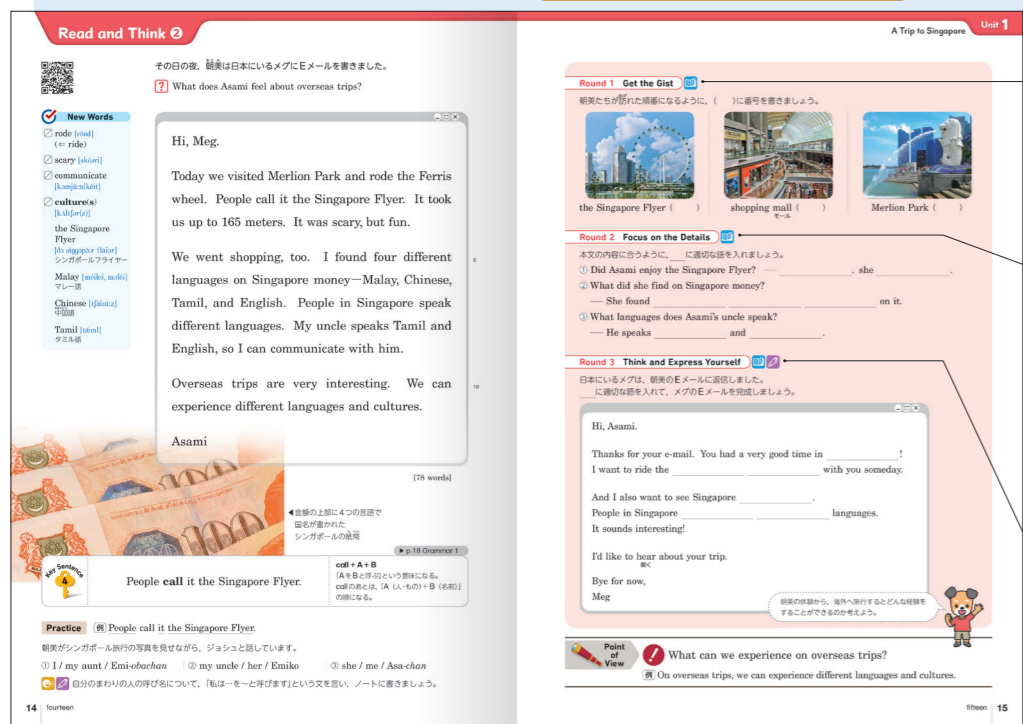


3 「3段階読み」で読む力を高めていく時期 2,3年生

1年生のUnit 6～11の助走期間を経て、2年生からは本格的な「読み」に入ります。「音」で聞かせつつ、次第に「文字」を読むところから始めるように移行していきます。

令和3年度の教科書では、新たな「3段階読み」を提示しています。まず、読みのヒントを提示し、丁寧にステップを重ねていくことで、スローラーナーの生徒にも理解を促し、自分自身の考えを引き出すところまで導く方法です。2年生の最初は易しい課題を設定し、3年生のゴールに向かって次第にハードルを上げ、高等学校へとつながる読む力を高めます。

2年 Unit1 Read and Think ② pp.14-15



1 概要を把握する。

最初に「3段階読み」に取り組むUnitなので、本文を順に追い、対応する写真を見つけて並べ替えるという易しいところから入ります。

2 必要な情報や詳細を読み取る。

①と同様に、本文の内容に関する質問に対して答える比較的簡単な課題にしています。

3 要点を整理し、考えを表現する。

これまでにわかったことをまとめ、自分なりの考えや感じたこと、意見などを表現できるようにします。

2年生の最初なので、空所補充とし、取り組みやすくなっています。

「3段階読み」の特長



▶ なたらかな分量の増加

本文の分量は、少しずつ増やしていき、3年生の終わりでは、入試を想定して300語に取り組めるようにしています。

▶ 文章のポイントをつかむ力の育成

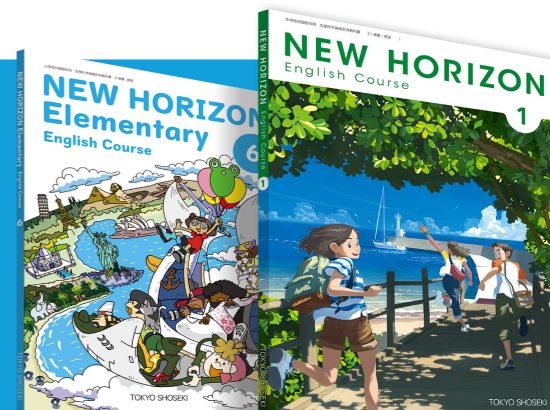
長い文章でも、STEPの課題を先に見ることで、読むためのヒントを得ることができます。

▶ 様々なタイプの題材を提示

2年生では食や旅行など身近なところからはじめ、3年生ではSDGsに関する社会的な話題など深いものを取り上げています。生徒が興味を持ったり、心の琴線に触れたりする多様なテーマの題材を扱い、かつ、いろいろなタイプの英文に触れられるようにしています。

小学校での学びを生かす 読み指導

1年生から始める「3段階読み」



小学校 6年生
NEW HORIZON
Elementary

中学校 1年生
NEW HORIZON

小学校と中学校の「読み」の違い

新学習指導要領では、各教科等における校種間の接続が重視されています。

では、今回の改訂で新たに導入された、小学校外国語科との接続で特に留意すべきことは何でしょうか。それは、小学校の「読むこと」「書くこと」の知識及び技能においては、慣れ親しむことに留まっており、4技能の総合的な育成に関して慎重に進めなければならないという点です。

中学1年生の最初の授業で、英語による指示をしっかりと聞き取ることができ、自ら進んで話そうとする姿に感心した等の感想をよく耳にしますが、まず、小学校外国語教育で生徒が身に付けている「聞くこと」「話すこと」の基礎的な技能のレベルと「読むこと」「書くこと」のそれは全く異なるという意識をもつことが大切です。

中学校で求められる「読み」の力とは

まずはじめに、新学習指導要領の「読むこと」の目標を簡単に押さえておきましょう。(以下、下線部は筆者による。)

ア 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。

「**必要な情報を読み取る**」ことが求められるものとして、広告やパンフレット、予定表、手紙、電子メール等が示されていますが、取扱説明書等も主体的な活動を生む教材になるでしょう。

イ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。

「**概要を捉える**」というのは、大まかな内容をつかむことです。登場人物の行動や心情の変化、あらすじを捉えさせるためには、それなりの分量でまとまりのある簡単な文章が必要です。生徒が日本語で読んだことのある物語や伝記等から始めると負担が少なくて済みます。小学校国語の読み物をピックアップし、英語の読み物教材として活用することも考えられます。

ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。

「**要点を捉える**」には、文章の中から複数の情報を取り出し、どれが最重要であるかを判断する力が求められます。日常的な話題に比べやや難易度も高くなり、客観的な視点で文章を読むことが必要となるため、国語を始めとする他教科での学びと関連付けた教材を探すことも必要です。



小学校の学びを生かす「読み」の指導のために

ここでは、新学習指導要領で求められる「読み方」に関して、令和3年度の教科書で提案する新たな方法を示します。教科書の構成は、大きく3つのまとまりとなっていて、じょじょに中学生に求められる「読み」の力を付けていくことができる点が特徴です。

1 小中接続期 1年生 Unit 1~5

小中接続期として、夏休みまでの期間をあてています。この時期は、小学校での「音」の学びを生かす「読み」方を行います。Unit 6からの「Story」仕立てになる前から、「読み」の指導は始まっています。

Q 小学校での学びを生かした「読み方」とは？

A はじめから文字を「読ませよう」とせず、生徒が小学校で身に付けたりスニング力・スピーキング力を生かし、「音」から導入しましょう。例に示すようなオーラル・インタラクティブを行って、本文で押さえるべき「概要」を確認します。

初期の指導で大切なことは、生徒にいかにも自分自身の力で「読んでいる」と錯覚させることです。概要をつかむことができれば大いに褒め、「音」で十分慣れ親しんだ後、文字を用いて確認し、その気にさせることがポイントとなります。

「概要を把握する」読み方を1年生から徹底することで、逐語訳の継続による文頭から読むことしかできなくなる・全部訳せないと「わからない」状況に陥ることを防ぎます。

例1 「自己紹介」 1年生 Unit 1 Part 1 p.13

Story メグが教室の前で自己紹介をします。メグについてわかったことは何ですか。

CDや上のコードを使用して、本文の音声を聞こう。

音声を聞きながら英文の文字を指ってみよう。

New Words
 call
 often
 Margaret マーガレット [英]
 Brown ブラウン [英]
 Meg メグ [英]
 Australia オーストラリア

Call me ...
 I'm = I am

number
 p.159 数
 color
 p.153 色

Your Turn
 自分の①名前と②年齢、③好きな食べ物や飲み物について伝える文を正しく書きましょう。巻末のWord Room (p.152)も参考にしましょう。

① I'm _____ ② I'm _____

③ _____

Beat by Beat
 I like apples. p.159

Sounds and Letters
 [t] too 音声を聞き、はじめの文字を _____ に書こう。
 [d] drink ① _____ ② _____ ③ _____

オーラル・インタラクティブ

What's this girl's name (nickname)?
Where's she from?
How old is she?
この後、Teacher's Talkで、
And she likes Japanese food. Especially she loves sushi. She often drinks green tea, too.
と、三単現をさりげなく回避した後、
How about you, everyone? Do you like sushi? Do you drink green tea?
というふうに、Your Turnへとつなぎます。

「自己紹介」の活動は小学校で既に行っていることを踏まえ、生徒がどの程度話し、聞き取ることができるのかをパフォーマンス評価でみとると同時に、話し言葉を文字として認識させ、いかに定着させるかという視点での教材研究が必要です。

例2 「身近な人やものの紹介」 1年生 Unit 2 Part 2 pp.20-21

Part 1 身近な人やものを紹介しよう

Enjoy Communication

Story
 Ms. Cook, this is Kaito. He's in Class 1B.
 Kaito, this is Ms. Cook. She's from America. She's our new English teacher.
 Hello, Ms. Cook. Nice to meet you.
 Nice to meet you, too.

Ms. Cook: Is that a fish market?
 Kaito: No, it's not. It's a sushi restaurant.
 Ms. Cook: Wow. I love sushi.
 Is the restaurant popular?
 Kaito: Yes, it is! It's always very crowded.

Your Turn
 This is _____

p.20のオーラル・インタラクティブ

Which class is Kaito in?
Who is Kaito's new English teacher?
Where's she from?

と、概要を押さえた後、This is ~.を使って身の回りの人やものを紹介します。

次時につなぐオーラル・インタラクティブ

p.21の学習の後、小学校で既習のcanを使い、
What can Ms. Cook and Kaito see?
と確認しながら、あらかじめ用意した校区マップを提示して、
What can you see from here?
と発問し、次時Part 2 (pp.22-23)へとつなぎます。

小学校での「自分の宝物紹介」などの活動の経験の有無を確認しながら、This is ~.等の表現を定着させたいところです。その際、This is ~. / That is ~. / It's ~. / She is ~. / He is ~. のどの表現に多く触れてきているか、逆に初めて目にするのはどれか、といった視点での教材研究が必要です。

2 本格的な読みへの移行期 1年生 Unit 6~11

「Story」仕立てになり本文の量は増えますが、やはり「音」から入り、これまでと同じように概要を把握する流れで指導し、2、3年生の「3段階読み」につなげる助走期間とします。

- 教科書の「Story」誌面には、1行目に日本語のリード文があり、場面が提示されています。
- 2行目にはリスニングマーク🔊を付した簡単なリスニング課題があり、本文の概要をとらえる助けとなります。
- 本文とイラストの下にリーディングマーク📖があり、生徒に読み取ってほしいことを示しています。1年生の段階から、読み取った内容をもとに自分の考えを表現することを促すようにしています。

例 「兄の紹介」 1年生 Unit 6 Story 1 p.59

オーラル・インタラクティブ

What is Asami's brother's name?
How old is he?
Where is he now?
と質問し、生徒からHe is in Cebu, the Philippines.の答えが返ってきた後、Yes. He lives in Cebu, the Philippines.と、さりげなく三単現を導入します。その後は、
What does Takuya study?
Who does he meet at school?
Where does he go to on weekdays?
What does he enjoy on weekends?
What does Cebu have?
Does Takuya like Cebu?
のように、三単現の問答を繰り返しながら、生徒の気付きを引き出します。

Story 1 A Speech about My Brother

ある日の英語の授業で、朝美は兄の紹介(Takuya)についてスピーチします。

本文と疑問を聞き、答えを○で読みましょう。 [① ② ③]

Hello, everyone. Look at this picture. This is Takuya, my brother. He's twenty years old. He lives in Cebu, the Philippines. He studies English at a language school there. He meets many Asian students at school.
 Takuya goes to school on weekdays, and sometimes enjoys scuba diving on weekends. Cebu has many beautiful beaches. He and his friends go diving together. He really likes Cebu. [65 words]

New Words
 language
 Asian
 student(s)
 weekend(s)
 weekday(s)
 scuba diving
 his (→ have)
 his
 dive, diving
 Cebu, セブ

Call me ...
 I'm = I am

number
 p.159 数
 color
 p.153 色

Your Turn
 自分の①名前と②年齢、③好きな食べ物や飲み物について伝える文を正しく書きましょう。巻末のWord Room (p.152)も参考にしましょう。

① I live in Cebu. Takuya lives in Cebu.

Practice
 ① Takuya / work / his school ② he / eat / bananas every day ③ Yano / speak / English well